

平成30年度 第2号

<平成30年6月5日>
安芸太田町立安芸太田中学校
TEL (0826) 32-2244
FAX (0826) 32-2987
E-mail akiotachu@gakko.akiota.jp
<http://www.gakko.akiota.jp/akiotachu/>



安芸太田中学校通信

第2回『友笑祭』<平成30年度 安芸太田中学校体育祭> テーマ『一心不乱にガンバレーヤ!』 期日：平成30年5月13日(日) 会場：安芸太田中学校体育館

前日までの好天气が一変し、5/13(日)はあいにくの雨空となりました。グラウンドでの開催を願ひ、ぎりぎりまで外で準備をしていましたが、開会の2時間前頃から雨粒が落ち始め、開会時には本格的な雨降りとなりました。

今年は、残念ながら体育館での開催となり、プログラムも縮小して実施しました。しかし、生徒たちは練習成果を十分に発揮しようと気持ちを奮い立たせていました。今回は見直す点の多い体育祭となりました。保護者の皆様のアンケートにも、予備日の設定や会場の広さ、戸河内ふれあいセンターの活用など、ご指摘やご意見を多数いただきました。保護者の皆様のご指摘、ご意見は、来年の体育祭のみならず、今後の学校行事の取組の見直しや内容の充実に活かしていきたいと思ひます。アンケートへのご協力ありがとうございました

しかし、雨にもかかわらず保護者やご家族の方、卒業生、地域の方、また来賓の方など100名を超える大変多くの方がご来場くださり、大変盛会の体育祭となりました。今年も、保護者、地域の安芸太田中学校への期待や関心の大きさを強く感じる体育祭でした。今回の体育祭の開催に向け、地域の方によるグラウンド整備や草刈りなど、多数の援助がありました。保護者、地域の皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

《学校旗を先頭に!》

昨年の体育祭には、まだ完成していなかった学校旗。今年、生徒会長が学校旗を掲げ先頭を行進しました。

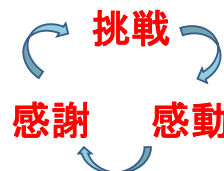


《入場行進》

《選手宣誓》

《応援合戦》

互いの健闘を称え、エールの交換から始まった応援合戦。紅白それぞれの結束力と勢いを示し、熱の入った応援合戦は、次第に熱を帯び、体育館を震わすようでした。



今年、僕は団長に立候補した。去年は練習をまじめにやっていたが、今年がまじめにやろうと思った。なぜかという、教育相談で担任の先生から、ある先輩の話を聞いたからだ。

その先輩は体育祭で団長を最後までやりきり、3年生の1年間は勉強も全力で頑張ったそうだ。その結果、第一志望の高校に合格したという話だった。僕も行きたい高校があるから、全力で頑張ろうと思った。しかし、その時は、まだ成績のために頑張ろうとしか思っていなかった。

応援練習が始まった。最初の一発目が肝心だと思い、本気で声を出した。次の日、声がかれていたから、しっかり声を出せていたんだと思った。

僕は野球部なので、練習の時、声を出せとみんなに言っている。かなり出るときは出る。つまり出そうと思ったら出せるのだ。ということは、声が出ないときはみんな手を抜いていると思っていた。

応援練習でもそんなことがあった。1日目はよく声が出ていたのに2日目から一部の人しか出なくなった。みんなに声を出そうと言うとかなり出た。しかし、何度言っても声を出さない人がいる。人によって声の大きさに違いはある。しかし本気で声を出したら、声がかれたり、体がそったりする。その人たちは、そんなこともなかった。

僕が声を出せと言ったら出す、何も言わなかったら出さない。このままでは、だめだ。本番に向けて、どうにかしないとイケないと思った。

怒ることも大切だと思うが、怒るだけでは聞かないかもしれない。なんで声を出さないのか、もう僕にはわからなかった。

しかし、本番直前の練習では、すごく声が出ていた。体育祭前日、晴れても、雨でも昼まで終わると聞いたとき、天気には勝てないし、どうしようもないと思った。でもせっかくやるなら本気でやろうと思った。本番の応援を迎えた。セリフが飛んでしまった。はっきり言って絶対負けたと思った。せっかくみんな練習したのに自分のせいで負けたと思った。でも結果は勝っていた。よかった。

今年、声を十分出せなかった後輩たち、来年はもっと成長してくれることを祈っている。

白組第2代団長 大江 比呂斗

今年の体育祭で紅赤組団長をした。みんな「団長になりたくない」と言ったからやってみようと思い、思い切って団長になった。団長になって、ものすごくやるが増えた。宣誓の言葉を考えたり、リーダーとしてみんなを引っ張っていくなど大変なことが次々と出てきた。

十分な応援の練習ができないまま、モヤモヤした気持ちでゴールデンウィークを終えた。僕の中に、焦りが見えてきた。ある日、予定黒板の5・6時間目応援練習という文字を見たとき、僕は一気に緊張した。人に教えたりするのは、あまりしたことがないので、「少しいやだな」と思っていた。でも、ダンスリーダーがみんなに上手く説明しているのを見て、「俺でも説明することが出来る」と気持ちを奮い立たせた。

応援練習では、まず、列を作るところから始めた。列はちゃんと並べさせることができた。だけど、一拍子や二拍子を教えることが大変難しかった。なんとかみんな理解してくれた。そのあともなんとか宮島さんまで教えることができた。最後の五分間、最初から宮島さんまで通してみた。すると、みんな上手くできた。みんな覚えが早くて、「すごい」と思った。

予行練習の応援合戦で、赤組は惜しくも負けてしまった、悔しかった。でも予行練習で負けた組は本番で勝つと昔から言われている。だから逆に、やる気ももっと湧いてきた。そして、ついに体育祭本番の日になった。予行練習では晴れだったのに、なぜか本番はあいにくの雨だった。無事に入場行進も終わり、応援合戦が始まった。緊張して僕は、三三七拍子では手が震えて持っていた扇子が飛んでいき、ものすごく恥ずかしかった。泣きそうだった。白組の応援団長も大事なパネルのセリフを忘れてしまっていて、違うことを言っていた。

応援合戦が終わった。ダンスも終わった。最後の得点発表はドキドキした。得点発表者が「白組優勝」と言った。

負けてしまった。とても悔しかった。だが、僕にとって、体育祭はとてもいいものであった。みんなと協力できたし、団結することもできた。中学校生活のとてもいい思い出になった。

赤組第2代団長 村田 遥飛



【 総合優勝 白組! 】



【 表現の部優勝 白組! 】



責任ある立場が人を成長させる

～ 自ら課題を発見し、解決する体験! ～

体育祭後の赤組・白組両団長の感想文には、リーダーとして何を感じ、何を考えたかがよく表れています。2人とも、集団をまとめ、集団の力を引き出すリーダー(逃げ出すことができない)という立場を体験することでの悩み、困難さを乗り越えようという挑戦したり、工夫したりしたことが述べられています。今までの自分が無関心、ややもすれば無責任な行動や態度であったという振り返りも見受けられます。

何より、よいのは2人とも周囲の仲間たちを認めることの大切さを理解したことです。できるできないではなく、やらないからできないのだということ、何かを変えるためには、まず自分が進んで動く。人を動かすには、できないことを責めるのではなく、できる環境をつくるなど多くのことを学んだようです。達成感や充実感も大きかった団長経験は、2人を随分成長させたように思います。

体験活動を通して見える自分の課題

～ よさの発見・課題の発見 ～

中高合同集団宿泊体験

<連携型中高一貫教育連携校との取組>

平成30年5月17日(木)・18日(金)

参加校: 安芸太田中学校(3年)・加計中学校(3年)・加計高校(全学年) 場所: 国立徳地青少年自然の家<山口県>



中高合同合宿も今年で3年目!

◎加計高校で力を伸ばす先輩に学ぶ!

<連携校の中高生の関係づくり>

校種や年齢が異なる集団の中で、活動や寝食を共にすることにより、参加生徒相互、また生徒と教職員の人間関係や信頼関係を深める。

<高校って何するところ? どんな力がつくの?>

連携校である加計高校に対する理解、高校進学や進路に対する関心を深める。

交流プログラム① 信頼関係・協力関係づくりに挑戦<TAP>



交流プログラム② 『加計高での学び』

加計高生によるパネルディスカッション

交流プログラム③ 苦手教科克服

<教えるのは高校生!>

交流プログラム④ 加計高生と語る

高校って何するところですか?
どんな力がつくんですか?
加計高のメリットは何ですか?

<中高合同集団宿泊体験で感じたこと・できたこと!>

- 見方を変えることで、新たな発見をすることができた。
- 自分で考えて、行動できるようになった。積極的に先輩たちに話しかけることができた。
- 初対面の人でも、いろいろな活動を一緒にすることで協力できた。
- 他の人と仲良くなれた。充実した時間を過ごすことができた。
- 友達との関係が深まった。多くの人と触れ合うことができ、つながりが築けた。
- コミュニケーションやチームワークができた。
- 活動を楽しむだけでは、自分の成長につながらない。
- 活動の中に、成長につながるものを見つけることが大事!
- 高校生との交流で、進路に関してなど、いろいろ学ぶことができた。
- OHPにかかれていない加計高校のことをよく知ることができた。

<課題だと改めて感じたこと!>

- 積極性をもっと持つ。自分からすすんで発言や行動する。指示されなくても動く。
- 人間関係を深める。もっと多くの人と関わる。協力しながら取り組む。あいさつをする。
- 見通しを持って行動する。てきばき行動する。
- 高校進学に向けて、もっと頑張らないといけない。

生徒の感想より

最初は、少し不安だったけど、高校生の人たちからたくさん話しかけてもらえて、うれしかった。高校生の姿を見て、「まとめる力」や「笑顔」「積極性」をたくさん感じました。だんだんと自分たちもその場になじんで楽しかった。見知らなかった先輩達でも気軽に話しかけてくれました。加計高校生の魅力が少しわかった気がします。高校生の名前も少しだけ覚えることもできました。

来年は、ちゃんと選んだ高校に入って、加計高校生の姿から学んだこと(気軽に話しかけることができる。笑顔で積極性があるなど)を意識して取り組み、頑張ろうと思いました。<3年女子>

＜平成30年度 山県郡中学校選手権大会・芸北地区中学校選手権大会＞
 期日：平成30年6月2日（土）・3日（日）



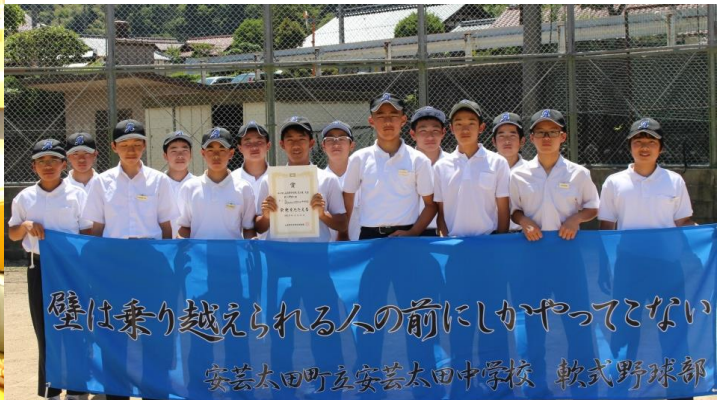
バレーボール部 第3位
 一人一人の持ち味を發揮し、
 チームとしての最高の結果を出す。



剣道部 男子団体 第3位
 切磋琢磨し、持てる力を最大限のばす。
 そして、持てる力を十二分に發揮する。



卓球部
 礼を尊び、礼に徹し、自分を鍛え、自分に克つ!
 (逃げない、投げ出さない、あきらめない、人のせいにならない)



野球部 第3位
 声をかけあい、協力しあい、全力でプレーする。
 目の前の壁に負けない。越えられない壁はない。

各部とも、この日に向け、放課後の練習はもとより、練習試合にも積極的に取り組み、試合に向かう技術やチーム力、あいさつなどのマナーの向上を図ってきました。何事も、取り組んだ分だけ、やった分だけ成果が出ます。体育祭や3年生の中高合同合宿の生徒の感想にあるように、積極性や自分の課題をはっきり理解して取り組んでいくことが大切です。夏の総合体育大会＜7月28日・29日＞に向け、もっと良い結果を残したいと全部活動とも意欲満々です。

各部の生徒が持っている旗は、広島県共同募金会の学校助成金により、制作したものです。学校助成金を生徒たち自身が有効に使うための第一弾として、各部で話し合い、自分たちの活動のよりどころとなる言葉を考え、旗にしました。この言葉の下、自分の可能性、そしてチーム力を伸ばすことに全力挑戦したいという思いを込めました。この旗を学校行事や大会で掲げ、全校生徒が活動に真剣に取り組む、結果を出すことにチャレンジします。

バレーボール部	『百花繚乱』	剣道部	『切磋琢磨』
卓球部	『克己復礼』	野球部	『壁は乗り越えられる人の前にしかやっこない』

＜お礼＞

広島県共同募金会地域テーマ募金には、地域の皆様、保護者の皆様をはじめ、大変多くの方にご協力をいただき、誠にありがとうございました。おかげをもちまして、62件 245,459円の募金が集まりました。募金目標額の200,000円を達成しましたので、広島県共同募金会より、安芸太田中学校に助成金400,000円の交付が決定しました。この助成金は、生徒会活動や生徒の地域貢献活動に係る経費に活用してまいります。

※学校通信は、本校のホームページにも掲載しております。
 ホームページでは、学校情報や生徒の活動、生徒に配布したお知らせをはじめ各種案内等を掲載し、安芸太田中学校の教育について広く紹介しています。ホームページも、ぜひご覧ください。